



先輩方に囲まれて

グループホーム花みずき スタッフ 入江 律子

グループホームで仕事をさせて頂くようになった11年前、認知症介護の経験が少なく知識も浅かった私は、先輩方に一つ一つ教えてもらいながら、見よう見まねでのスタートでした。利用者さんへの対応・接し方はとても難しく大変で、失敗したり悩んだりの毎日。「何であの先輩はあんなにスムーズに動けるんやろ、利用者さんをあんなに笑顔に出来るってすごいなあ…。その先輩が「同じ目線になってみ、まわりを良く見て動いてみ」とアドバイスをくれました。

頭では「なるほど！」と理解できたけれど、行動に移す事がなかなかスムーズに行かず、何度も心が折れそうになりながら、何とか一連の動きが出来るようになってきました。すると、少し気持ちにゆとりができ、利用者さんとの時間を何とか作る事が出来るようになりました。利用者さん一人一人が人生の大先輩で、時には色々な事を教えて下さる先生です。

「あ～あ…シャツの袖はこうたたまんとシワになるんやで」たたみ方を教えて下さった方。

「短い針はこう持った方が使い易いで」手を取り教えて下さった方。

「米の研ぎ汁、捨てたらアカンやん、大根炊くんやろ？」炊事をしながら教えて下さった方。

「アンタ社交ダンスした事ある？ホレ、踊ろ」ステップを教えて下さった方。

「子供は怒ったらダメやで、褒めてあげて育てなアカンよ」子育てのアドバイスをして下さった方。

「長い皿はここ、茶碗はここ、汁椀はここ、箸はここな。ホンマにアンタは並べ方も教わらんと嫁に行ったんか」卓上で並べ方を細かく教えて下さった方。

「アンタはまだ子供！尻の青い子供、『毛の生えたヒヨコ』やな」とお尻を叩かれ、きびしいなあ～姑みたいやん！と思う事もありましたが、何かを教えて下さる時の表情は生き生きとして素敵でした。

時間と共に少しずつ変化する認知症状、利用者さんへの対応・接し方の難しさを実感したのが「症状の進行」でした。この間出来ていたのに、今日はやりにくそうにしとってやなあ…何か表情が違うなあ…。

「一緒にしましょ」と声を掛けても「わからへん」「何でせなアカンの」「しんどい」「もおええ」そんな言葉が増え表情も変わってきたのです。そして少し

ずつ変化する状態に…。「何が出来るんやろ…何がしたいんやろ…何を伝えたいんやろ…?」「今の対応で良かったんやろか?」一つ一つの対応に自信が持てず、利用者さんを不安にさせてしまった事もありました。

11年過ぎた今も利用者さんへの対応・接し方は難しく自問自答の毎日ですが、「私たちの仕事は利用者さんを笑顔にする事やで!」と背中を叩いてくれた先輩が私の目標です。頑張るぞ!



入江さん、すごいなあ。スタッフの先輩からも、また人生の先輩としての入居者からも学び続けていますね。 (大)